

ふるさと「北野」 ～ 我が校歌 ～

北野小学校長 丹羽 郁人



一、 青空高い 鉄塔の

つづくかなたの 村積よ

稲穂豊かに みのる中

広く明るい 北野の子

みんな仲よく 励もうよ

二、 小針の古城 松が鳴る

古きみ寺の 壇の上

はるか昔を 今こゝに

楽しく語る 北野の子

みんな手をとって 学ぼうよ

三、 岡崎城を 遠く見て

今もかわらぬ 矢作川

明けゆく里に 旗あげて

未来に生きる 北野の子

みんな世界に 伸びようよ

本校の校歌は、開校した昭和六十年度の三月に産声をあげた。作詞は、地元岡崎の有識者であり、岡崎市内公立小中学校の校長を歴任された「糟谷正孝」氏。作曲は、NHK合唱コンクールの課題曲を何曲も手掛けている、全国的に有名な作曲家「黒澤吉徳」にお願いをしている。学区の思いが、学区民の願いが、この校歌には凝縮されている。

ふるさと「北野」が好きで、誇りに思う子供たちを育てたい。我が校歌を、親しみ、口ずさむ子供たちを育てたい。そう強く願っている。

1 産業の振興と豊かな実り

校歌一番に「青空高い 鉄塔」「稲穂豊かに実る」とある。

「鉄塔」とは、送電線のある高い鉄の塔である。学校から見える鉄塔は、大量の電力を、学区にある大工場に送っている。すなわち青空のもとでそびえ立つ「鉄塔」は、工業の発展、産業の振興の象徴である。一方「稲穂」は、豊かな土地にすくすくと育つ農作物を指している。大工場と豊かな田畑が見事に融合している中で、子供たちは育っている。

2 歴史ある学区

校歌二番では「古城」「古き み寺」という言葉で表現される。

学区には、はるか昔、弥生時代の「小針遺跡」がある。また、小針町の住所には「城跡」「本丸」などの名称が現在も使われ、この地に城があったことを表している。また、飛鳥時代に建てられたと言われる「北野廃寺」の跡がある。(本校の校章は、北野廃寺の軒瓦がモデルになっている)歴史的に価値のある史跡も多い学区である。歴史ある学区の中で、子供たちは「今」を力強く生きていくというのが、校歌二番の趣旨であろう。

3 未来に向かって

校歌三番には「あけ行く里に 旗あげて」とある。「旗あげて」とは「志をもって主義・主張を示すこと」を指している。すなわち、未来に向かって、志を持って力強く歩んでほしいという強い願いが歌われている。「未来」に向かって、そして「世界」へと、力強く歩んで行ってほしい、北野っ子よ。

素敵な、素敵な校歌である。ふるさと「北野」が好きで、誇りに思う子供たちを育てたい。我が校歌を、親しみ、口ずさむ子供たちを、育てたい。(二〇二一・一一・二三)

